

日本経済新聞の6月20日付け朝刊記事について

2013年6月25日

三多摩生コンクリート協同組合

標記の件、「建築現場で余る 廃棄の生コン有料で引き取り 首都圏で導入拡大」の見出しで掲載された記事の内容につきまして、当協同組合の主旨を更に適切に説明する必要があると考えますので、改めて実施時期および当協組の主旨内容をお知らせ致します。

記

- 実施時期

2013年6月1日引合い物件からです。

- 主 旨

昨今の地球環境問題による廃棄物の削減や資源の節約等、企業に求められた課題に応えるためにも、残コン、戻りコンの削減を図ることが、必須となっております。その為には、各現場の需要家様と納入する組合員工場との綿密な連携に努めたいと存じます。

努力の結果、やむなく荷卸せず全量持ち帰りとなった生コンを対象に「生コンキャンセル料」をお願いするものです。

実施時期および主旨は以上でございますので、宜しくご理解いただきご協力をお願い申し上げます。

建築現場で余る

建築現場で余った生コンクリートを有料で引き取る動きが首都圏で出てきた。今夏から東京都や神奈川県が生コン組合が導入する。これまで各製造業者が無償で工事現場から引き取っていたが、有料化で採算を改善したい考え。

生コンの廃棄 有料で引き取り

三多摩生コンクリート協同組合(東京都立川市)が8月納入分から本格導入を始めるほか、玉川生コンクリート協同組合(川崎市)が9月出荷分、湘南生コンクリート協同組合(横浜市)が10月受注分からそれぞれ始める計画で、ゼネコン(総合建設会社)などに負担を求めらる。

首都圏で導入拡大

三多摩は1立方メートルあたり4000円、玉川が同5000円、湘南が同6000円を打ち出しており、生コン価格に追加して徴収する。東京の生コンの取引価格は現在、同1万円強となっている。廃棄する生コンは出荷量の3%ほどとされており、年間の処理費用は1社あたり1千万円強に上る。建築現場では熟練工がなくなり、見積段階で生コンを多めに発注する例が増えており、「産業廃棄物の処理費用が上がっており、負担が増している」(三多摩生コン協組)という。無駄な発注が少なくなり、環境への負担も減らされるとみて有料化を決めた。